

(4) 新 収 蔵 品 展

「直筆のあじわい 正宗白鳥・中村星湖・中里介山・檀一雄・武田泰淳・深沢七郎・秋山秋紅蓼ほか」

期 間 2012（平成24）年2月2日（木）～3月21日（水）

会 場 企画展示室（観覧無料）

展 示 資 料 一 覧

【富士山の日】展示コーナー

芥川龍之介「富士山」原稿

李 良枝「富士山」原稿（コピー）

【平成23年度新収蔵資料】

正宗白鳥「東京通ひ」原稿

川合仁「正宗白鳥氏と私」原稿

中村星湖 川島順平宛書簡 1928（昭和3）年8月26日

中村星湖 川島順平宛葉書 1929（昭和4）年1月21日

中村星湖 川島順平宛書簡 1929（昭和4）年3月13日

天満ふさこ『「星座」になった人 芥川龍之介次男・多加志の青春』2007（平成19）年6月 新潮社

芥川多加志「四人」原稿（コピー）

芥川多加志「墓地」原稿（コピー）

回覧雑誌「星座」第3号 1942（昭和17）年5月

回覧雑誌「星座」第4号 1942（昭和17）年8月

回覧雑誌「星座」第5号 1942（昭和17）年12月

芥川比呂志「感想」原稿

芥川多加志写真

暁星中学校時代、遠足にて／暁星中学校時代、二階の勉強部屋にて／東京 深大寺附近にて 1942（昭和17）
年秋撮影／「星座」同人たちと 1943（昭和18）年11月、入営前／ソウルにて1943（昭和18）年12月、朝鮮
第22部隊千葉隊小西班

伊馬春部 井伏鱒二宛書簡 1947（昭和22）年8月10日

伊馬春部 井伏鱒二宛書簡 1967（昭和42）年2月22日

井伏鱒二 1941（昭和16）年12月15日、シンガポールに向かうアフリカ丸船上での写真

深沢七郎「いろひめの水」原稿 コピー

深沢七郎「いろひめの水」校正刷り

成島俊司『楢山の里へ』草稿

成島俊司『楢山の里へ』1999（平成11）年11月 山梨日日新聞社出版局

深沢七郎肖像写真 撮影 佐藤真樹

深沢七郎肖像写真 撮影 内藤久嗣

飯田龍太「一月の川一月の谷の中」軸装

飯田龍太「雪の日暮れはいくたびも読む文のごとし」軸装

飯田龍太「水原秋桜子」原稿

雲母俳人寄せ書き帖「春愁」

窪田空穂「兄川にならぶ弟川ほそぼそと青山峽をながれてくだる」短冊

窪田空穂「あめつちはすべて雨なりむらさきの花びら垂れてかきつばた咲く」短冊

山崎方代「去年の雪いづくにありや野ぶどうはひそひそ白き萼をこぼしおり」色紙

柳原白蓮「春浅しそらには空のひかりあり人にはひとのよろこびあれや」色紙

秋山秋紅蓼自画賛「飲罷雞酥有餘を楽しむ 花陰真是華胥を卜にす」軸装

秋山秋紅蓼「鯉沢中学校々歌」原稿

秋山秋紅蓼 スケッチブック 1962（昭和37）年8月13日画「鯉沢富士川鉄橋」ほか

秋山秋紅蓼 スケッチ 1946（昭和21）年

秋山秋紅蓼 スケッチ 1938 (昭和13) 年
 秋山秋紅蓼日記「無題録」1911 (明治44) 年3月10日～6月15日
 秋山秋紅蓼句日記32 1956 (昭和31) 年2月16日～11月30日
 秋山秋紅蓼句日記33 1956 (昭和31) 年12月1日～1957年3月30日
 中里介山「一劍倚天毛骨寒 昭和戊辰秋」二曲一隻屏風 1928 (昭和3) 年
 檀 一雄『坂口安吾選集』第二卷 解説原稿
 武田泰淳「深沢七郎『庶民烈伝』」原稿
 深沢七郎『庶民烈伝』1970 (昭和45) 年1月 新潮社
 武田百合子「日日雑記」草稿
 武田百合子『日日雑記』1992 (平成4) 年7月 中央公論社
 辻 邦生「埴谷雄高氏との出会い」原稿
 太田黒克彦「釣人手帖抄」原稿
 太田黒克彦 竹村坦宛葉書 1941 (昭和16) 年9月3日 (追伸1)
 太田黒克彦 竹村坦宛葉書 1941 (昭和16) 年9月3日 (追伸2)
 太田黒克彦『川魚ものがたり』1941 (昭和16) 年8月 竹村書房 (著者校正本)
 「眠狂四郎」台本「修羅の道」1967 (昭和42) 年8月7日放送
 「眠狂四郎」台本「贗金づくりの女」1967 (昭和42) 年7月31日放送
 「あの橋の畔で」台本 1962 (昭和37) 年 松竹
 「香華」台本 1964 (昭和39) 年 松竹
 「涙を、獅子のたて髪に」台本 1962 (昭和37) 年 松竹
 「かあちゃん結婚しろよ」台本 1962 (昭和37) 年 松竹

【やまなし文学賞 小説部門掲載時挿絵原画】

斎藤武士画 第1回受賞作「灯籠流し」(鬼内仙次作) 挿絵原画
 菊島 明画 第2回受賞作「帰郷」(横山充男作) 挿絵原画
 加島 査画 第3回受賞作「川べりの家族」(李優蘭作) 挿絵原画
 堀内洋子画 第4回受賞作「光の中へ消えたおばあちゃん」(宝生房子作) 挿絵原画
 石川 博画 第5回受賞作「対馬—こころの島—」(村野 温作) 挿絵原画
 菅原幸代画 第6回受賞作「わたしの牧歌」(田村加寿子作) 挿絵原画
 小川リ工画 第7回受賞作「たびんちゅ」(大野俊郎作) 挿絵原画
 中野宗夫画 第8回受賞作「旅の果て」(飯倉章作) 挿絵原画
 山本七郎画 第9回受賞作「桑の村」(鬼丸智彦作) 挿絵原画
 横瀬信子画 第10回受賞作「優しい雲」(横瀬信子作) 単行本装幀原画
 西沢武徳画 第11回佳作「自転車」(吉田文彦作) 挿絵原画
 望月 一画 第11回佳作「紙人形」(秋元 朔作) *第11回は「やまなし文学賞」該当作なし
 増田 実画 第12回受賞作「ミクウさん」(尾木沢響子作) 挿絵原画
 窪 咲子画 第13回受賞作「少年と父親」(冬野 良作) 挿絵原画
 中村修二画 第14回受賞作「六道橋」(深沢勝彦作) 挿絵原画
 吉田光雄画 第15回受賞作「父のグッド・バイ」(井岡道子作) 挿絵原画
 榎並和春画 第16回受賞作「家族ごっこ」(秋元 朔作) 挿絵原画
 堤 春生画 第17回受賞作「日向の王子」(柳原 隆作) 挿絵原画
 天野 昭画 第18回受賞作「恩寵」(大橋紘子作) 挿絵原画
 三井ヤスシ画 第19回受賞作「真空管式」(宮野 晶作) 挿絵原画
 柏原恵美画 第19回佳作「風の行く先」(井野登志子作) 挿絵原画
 青柳 緑画 第19回佳作「お魚にエサをあげてね」(冬川文子作) 挿絵原画

【やまなし文学賞 研究・評論部門受賞作】

牟礼慶子『鮎川信夫 路上のたましい』(思潮社)
 栗原 敦『宮澤賢治 透明な軌道の上から』(新宿書房)
 谷川恵一『言葉のゆくえ—明治二〇年代の文学—』(平凡社)

林淑美『中野重治 連続する転向』（八木書店）
目崎徳衛『南城三餘集私抄』（小沢書店）
中島国彦『近代文学にみる感受性』（筑摩書房）
酒井憲二『甲陽軍鑑大成』全四巻（汲古書院）
宮岸泰治『木下順二論』（岩波書店）
菅野昭正『永井荷風巡歴』（岩波書店）
細谷 博『凡常の発見 漱石・谷崎・太宰』（明治書院）
内田道雄『内田百閒—『冥途』の周辺』（翰林書房）
関 礼子『語る女たちの時代 一葉と明治女性表現』（新曜社）
亀井秀雄・松木博『朝天虹ヲ吐ク—志賀重昂「在札幌農學校第貳年期中日記」』
(北海道大学図書刊行会)

松下 裕『評伝中野重治』（筑摩書房）
高田 衛『女と蛇—表徴の江戸文学誌』（筑摩書房）
関口安義『芥川龍之介とその時代』（筑摩書房）
伊藤博之『西行・芭蕉の詩学』（大修館書店）
相馬庸郎『深沢七郎 この面妖なる魅力』（勉誠出版）
東郷克美『太宰治という物語』（筑摩書房）
兵藤裕己『〈声〉の国民国家・日本』（日本放送出版協会）
清水孝純『笑いのユートピア『我輩は猫である』の世界』（翰林書房）
山崎一穎『森鷗外・歴史文学研究』（おうふう）
ジャン＝ジャック・オリガス『物と眼 明治文学論集』（岩波書店）
花崎育代『大岡昇平研究』（双文社出版）
勝又 浩『中島敦の遍歴』（筑摩書房）
宗像和重『投書家時代の森鷗外』（岩波書店）
三枝昂之『昭和短歌の精神史』（本阿弥書店）
坪井秀人『戦争の記憶をさかのぼる』（筑摩書房）
瀬尾育生『戦争詩論 1910—1945』（平凡社）
長谷川郁夫『美酒と革囊 第一書房・長谷川巳之吉』（河出書房新社）
高橋英夫『音楽が聞える—詩人たちの楽興のとき』（筑摩書房）
西田耕三『主人公の誕生 中世禅から近世小説へ』（ベリかん社）
関 肇『新聞小説の時代—メディア・読者・メロドラマ』（新曜社）
松本章男『西行 その歌 その生涯』（平凡社）
揖斐 高『近世文学の境界—個我と表現の変容』（岩波書店）
紅野謙介『検閲と文学 1920年代の攻防』（河出書房新社）
戸松 泉『複数のテキストへ 樋口一葉と草稿研究』（翰林書房）
齋藤 希史『漢文スタイル』（羽鳥書店）



(5) 教育普及事業

1. 事業の基本的な考え方

教育普及事業は、調査・収集・整理・保存・展示・研究などの諸活動とともに、文学館活動の中で重要な位置を占める。県民のニーズに対応し、社会教育・学校教育との連携を図り、県民や来館者の生涯にわたる学習がより一層進展するように学習支援を行なう。

文学専門の博物館としての特殊性を生かし、年間を通しての文学講座の開催、講演会の開催、文学的に価値ある映画の上映、朗読鑑賞会、県内の文学ゆかりの地を訪ねる文学散歩を開催する。

さらに、山梨ゆかりの作家や作品の資料を活用した学習プログラムや子ども向け事業の充実を図ることは、郷土への関心を高め、郷土を愛し、郷土に誇りを持つような心情を育むという点からも重要である。

子どもから大人までの幅広い県民の文学活動の中心となり、文化の発信拠点としての役割を果たすため教育普及活動を展開していく。

2. 教育普及活動の内容

(1) 年間文学講座

年間文学講座は平成2年度から実施している。県民の興味・関心に応じて幅広く学べるよう配慮し、テーマ設定に当たっては講師の専門性を生かすとともに、県民のニーズに対応できるよう、土・日や平日にも開講する。

平成23年度は、外部講師による「古典文学講座1（全8回）」と「近代文学講座2（全8回）」の2講座を実施した。講座1の1～4回は「甲州と能・狂言」、5回目以降は、講師が変わり「藤原道長と紫式部」、講座2のテーマは「『太宰治』の芸術と実生活」であった。

(2) 山梨の文学講座

「山梨の文学講座」は、当館の展示作家を中心に、山梨出身・ゆかりの文学と人についての講座を実施し、当館学芸員が講師を務めた。また、美術館の企画展に関連して「川端康成と日本美術」と題して講座を開催した。

(3) 平成23年春・秋企画展関連教育普及事業

春の企画展「文芸映画のたのしみ 谷崎潤一郎・泉鏡花・川端康成・三島由紀夫…」秋の企画展「深沢七郎の文学「榎山節考」ギターの調べとともに」に関連して、作家・研究者・関係者による講演会や関連講座を行った。企画展のテーマを詳しく解説し、展示では扱えなかった視点から考察を加えるとともに企画展そのものへの理解を深められるように実施する。外部講師及び職員による講演会・講座などを通して文学を学ぶ機会とする。

- ①外部講師及び職員による講演会・文学講座事業を実施する。
- ②関連映画鑑賞会を実施する。
- ③ギャラリートークは、土、日、祭日を中心に行う。その他、展示解説は要望により随時実施する。
- ④子どもから大人まで楽しく興味を持って観覧できるよう、企画展クイズを作成。
- ⑤企画展の内容によっては、子ども向け事業を実施する。（朗読会など）

(4) 名作映画鑑賞会

本企画は、有名な文学作品を映画化した名作の数々を上映し、文学と映画の関わりについて、多くの県民とともに考える企画である。平成2年から毎年実施してきたものである。なお、企画展開催期間中には、関連映画の鑑賞会も計画している。平成23年度は全11回実施した。

(5) 朗読鑑賞会

作品（詩・小説など）の魅力を朗読によって鑑賞する企画である。開館の年から実施し、毎年開催、幅広い年齢の聴衆から大変好評を博している。県内外から著名な講師を呼んで実施する。平成23年度は、企画展に関連して劇団「芸協」による朗読劇『榎山節考』を11月に実施した。

(6) 山梨の文学解説講座

16年度から秋の企画展関連事業として実施している。実行委員会とNPOとの協働事業とし、コースにあたる市町村の協力のもと開催する。企画展観覧後文学ゆかりの地を訪ねることで、より興味深く学習できる内容にする。平成23年度は、企画展「深沢七郎の文学「榎山節考」ギターの調べとともに」にあわせ「深沢七郎ゆかりの地と峡東地区文学散歩」を実施した。

(7) 山梨の文学解説講座

この講座は、学芸課の職員が、要請された市町村等に関連のある県出身・ゆかりの文学者の人と作品を紹介する講座である。当館の研修室・講堂等あるいは市町村等において、説明・講義する。

(8) 就業体験（ジュニアインターンシップ）受け入れ

子どもたちの職業観・勤労観を、より早い段階から育成するとともに、将来、自らの進路を自分自身で選択できる能力を育てていくことが課題となっている。文学館としても、中・高校生の職場見学やジュニアインターンシップを積極的に受け入れ、若年者の職業意識形成支援に積極的に取り組む。

(9) 教師のための学習会開催

県内の小・中・高校・特別支援学校の教師を対象に春と秋の企画展・特設展に関わって、文学館職員による説明と展示観覧を通して、国語教育への活用を図る。

(10) 児童生徒向け事業について

将来の山梨を担うことになる子どもたちに、優れた文学と文学者の存在に気付かせるきっかけを作る。若者の読書離れの実態を考慮し、学校教育との連携をより緊密にして、文学を通して豊かな心を育てていく。

① 文学教室

年間を通じ、随時開催する。小学校、中学校、高等学校の要請に応じ、当館が展示する内容について、当館の研修室・講堂等、あるいは各小中学校、高等学校において、説明・講義する。当館所蔵の視聴覚資料を十分活用し、実施する。

② 子ども名作映画会

当館講堂において、夏休みの期間中に良質の映画の上映（2回）を行う。23年度は美術館の「ムーミン展」にあわせた上映も2回あり、計4回の上映を行った。

③ お話の森朗読会

18年度から実施している。「肉声で聴く文学」である朗読は、子ども達により楽しく、親しみをもって文学を身近に感じてもらえる機会となる。県内で活躍する朗読指導者等の協力を得て土曜日に実施し、低年齢の子どもから大人まで、家族や親子で朗読に親しむ機会とする。平成23年度は、5月、7月の2回実施した。

④ 教育普及用資料集（ジュニアガイドブック）

学校教育との連携の一環として、山梨県出身およびゆかりの文学者と文学作品について、わかりやすく解説したジュニアガイドブックおよび教育普及資料「芥川龍之介」を作成。文学教室資料として活用し、子どもたちが文学への興味や関心を持てるようにする。

⑤ 学習資料・企画展関連パネルの貸与

館作成資料の一部を学習のために貸与する。要請により、学校をはじめ、生涯学習機関等に対して貸与を行う。23年度は、秋の企画展に合わせて深沢七郎のアウトリーチパネルを作り学校へ貸し出した。

⑥ 常設展クイズ

常設展を見に来た子どもたちが、常設展のポイントをつかんで楽しく観覧できるように、「常設展クイズ（わたしはだあれ?）」を作成し、「チャレンジ文学館」を実施し、活用を図っている。

さらに、今年度も夏休みフリーパスポートの活用により、夏休み期間中は「夏休みチャレンジ文学館」として、子どもたちへの浸透を図る。

⑦ 企画展チャレンジクイズ

楽しみながら企画展の内容が学べる小中学生対象のクイズを作成。「チャレンジクイズ」を通して、文学や作家について学ぶ機会を提供する。

⑧ 文学の柱

芸術の森公園内に、俳句や詩、短歌や童謡、小説やエッセイの一節を書いた24本の柱を立て、「文学の柱」と題したクイズを実施する。